

2023年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52203	幼児理解 Infant Understanding	井手裕子		共通	2	選択	1後期

科目の概要
 幼児理解の全体目標は、科目学習を通して幼稚園教育や保育園での養護のあらゆる基本となる対象の理解を得、幼稚園・保育園における幼児の生活や阿蘇の実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができるようになることである。この目標を達成するため、保育の心理学の立場から幼児を理解する。内容として基礎的な理論や歴史から、子ども・保護者の心の問題や行動についての理論的理解や事例を通して具体的に理解し、その対応や援助方法などについて学ぶ。また、幼稚園・保育園における気配りな園児や保護者の対応方法などの「見立て」「援助」なども具体的に学生が自ら考え、援助方法を学ぶように授業を工夫して行う。また、心理検査や発達検査などの演習も行う。これらの取り組みを通して、幼児教育および保育の現場で活躍できるための専門的知識・技能を修得し、それぞれの現場で協調性を持って柔軟に活用する能力を身につける。

学修内容	到達目標
① 子どもの発達と保育実践（発達把握、個人差や発達過程、身体感覚、環境、関係作り、自己主張、自己統制、集団） ② 生活や遊びを通じた学びの過程（生活・遊びと学び、生きる力） ③ 保育における発達援助（基本的生活習慣、主体性、発達の課題、連続性と就学への支援、協働、現代社会における課題）	① 子どもの発達と保育実践について、知識を身につけ、考え方や基礎的 態度を理解し、説明できる。 ② 幼児理解の方法としての生活や遊びを通じた学びの過程を理解し、活用できる。 ③ 保育における発達援助について、具体的な生活習慣、発達課題、連続性等の知識を理解し、実践に役立てることができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	必要な知識について、調べ学習等の自発的な学習を行うことができる。
	働きかけ力	
	実行力	事例検討、グループ討議等の困難な課題にも粘り強く取り組むことができる。
考え抜く力	課題発見力	事例検討等で、事例を読み取り登場人物のニーズを把握したり、解決の手だてを把握したりすることができる。
	計画力	
	創造力	事例の解説通りではなく、それを土台とした自らの新しい発想を通して事例を解釈し支援計画を考えることができる。すなわち自分で問題を想定したうえで支援を考えられる。
チームで働く力	発信力	グループ討議の結果をクラス全体に分かりやすく発表することができる。また、相互に教え合うアクティブラーニング形式の学習方法を実行することができる。
	傾聴力	発表者の意見を自分の立場に置き換えて、発表者の意図を汲み取りながら聴くことができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。 欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：検討中
 ※その他：プリントは適宜配布する。
 参考文献：幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領（平成30年3月最新版）、ミネルヴァ書房

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：保育の心理学、教育心理学、障がい児保育
 資格との関連：幼稚園教諭二種免許、保育士、准学校心理士

学修上の助言	受講生とのルール
前期に履修した保育の心理学で学んだ知識を使って実践的な内容を行うため、必ず知識は復習しておくこと。 1年間で、理論と実践を結び付けられるような考え方をあらゆる方面から学習できるように、基本的な知識はすぐに言えるよう、予習と復習を習慣とすることが求められる。	授業は集中して聞き、疑問点は積極的に質問すること。 ・20分を超えた遅刻は欠席扱いとする。 ・レポート課題についてのルール「レポートの書き方」（第1回目に配布）を守ってほしい。名前の書き方等ルール通りでない場合、減点する。 ・授業態度が悪い場合（居眠り、私語、周囲に迷惑をかける行為等）はマイナス扱いとすることがある。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント						
学修成果	学期末試験	0	①	✓						
			②	✓						
			③	✓						
	平常評価	小テスト	10	①	✓					<ul style="list-style-type: none"> ・主要なトピックスについての理解がなされているか。 ・①～③について、得た知識（用語）を説明できるか。 ・前期に行った講義の内容が復習できているか。 ・前期に学修した知識を実践に役立てられるか。
				②	✓					
				③	✓					
		レポート	50	①	✓					<ul style="list-style-type: none"> ・①～③の知識を理解し説明することができるか。 ・授業で学修した内容をもとに、実践に役立てられるか。 ・幼児を理解するための教育心理学の理論を理解できているか。 ・定型発達と発達障害の差異を理解しているか。
				②	✓					
③				✓						
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	30	①	✓					<ul style="list-style-type: none"> ・主要なトピックスについての理解がなされているか。 ・①～③について、得た知識（用語）を説明できるか。 ・前期に行った講義の内容が復習できているか。 ・前期に学修した知識を実践に役立てられるか。 		
		②	✓							
		③	✓							
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓				(主体性) 調べ学習等の自発的な学習を行うことができる (実行力) 事例検討、グループ討議等の困難な課題にも粘り強く取り組むことができる。 (課題発見力) 事例検討等で、事例を読み取り登場人物のニーズを把握したり、解決の手だてを把握したりすることができる。 (創造力) 事例の解説通りではなく、それを土台とした自らの新しい発想を通して事例を解釈し支援計画を考案することができる。 (発信力) グループ討議の結果をクラス全体に分かりやすく発表することができる。また相互に教え合うアクテプラーニング形式の学習方法を実行することができる。 (傾聴力) 他者の意見を自分の立場に置き換えて意図を汲み取り聴くことができる。 (規律性) ・遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。 ・欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。		
			②	✓						
			③	✓						
総合評価割合		100								

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
レポート・社会人基礎力（学修態度）・小テストの3つの評価方法において満遍なく十分な力を発揮できればA。3つの評価方法においてほぼ、あるいは完璧に力を発揮できればS。	レポート・社会人基礎力（学修態度）・小テストの3つの評価方法において十分ではないが力を発揮、もしくは2つの評価方法において十分な力を発揮できればB。2つの評価方法において十分ではないが力を発揮、もしくは1つの評価方法において十分な力を発揮できればC。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション 「幼児理解」とは何か、幼児理解についての意義を学ぶ。子ども理解における発達の把握として、発達検査について学ぶ。実習中の「気になる子」についてレポートする。	講義 抱負を記述し、提出グループ討議(心理診断法の体験)	幼児理解で何を学ぶことができるのかを理解し、目標、抱負を記述できる。 アセスメントの方法や結果の解釈を通して、幼児の定型発達等を理解できる。	復習：配布プリントを見直し、理解できたこと、理解できなかったことを記述し、次の質疑応答時に備える。実習中の「気になる子」について、気になった点をレポートする。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2	学習心理学を学ぶ(古典的条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習等) ③ポスター制作、ポスター張り出し、発表	小テスト、前回の復習(振り返りシートの質疑応答、フィードバック及び解説) 講義 グループ討議	「学習心理学」を理解し、そこから乳幼児に對しどのような教育援助を行うことができるかを考え、発表できる。	予習：テキスト(保育の心理学で使用した教科書)の「学習」の項目を読む。 復習：配布プリントを見直し、理解できたところ、理解できなかったところを記述し、次の質疑応答時に備える。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3	動機づけを学ぶ 外発的動機付け、内発的動機付けを学ぶとともに、自己効力感との関連性を学び、学習性無力感に陥らないための課題として、プログラム学習を学ぶ。	小テスト、前回の復習(振り返りシート質疑応答、前回授業のフィードバック及び解説) 講義 討論 グループ討議	動機付けを理解するとともに自己効力感がどのように乳幼児の生活に影響するかを想像することができる。	予習：テキスト(保育の心理学で使用した教科書)の「動機付け」の項目を読む。 復習：配布プリントを見直し、理解できたところ、理解できなかったところを記述し、次の質疑応答時に備える。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4	環境としての保育者と子どもの表象について学ぶ。 ピアジェの発達理論、ヴィゴツキーの発達の最近接領域の理論を学ぶ。(表象、ごっこ遊び、原因帰属、自己効力感)	小テスト、前回の復習(振り返りシート質疑応答、フィードバック及び解説) 講義、グループ討議	遊びの変化、やる気を育てる支援等について理解できる。また、表象、ごっこ遊び、原因帰属、自己効力感について保育に生かすシミュレーションができる。	予習：表象、ごっこ遊び、原因帰属、自己効力感の用語についてテキストから探し、調べておく。 復習：配布プリント、授業内容を見直し、理解できなかったところを記述し、次の質疑応答時に備える。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5	子ども相互のかかわりと関係作り、子ども集団の保育の環境を学ぶ(いざこざの原因、アタッチメント、自己主張と自己統制、道徳性、向社会行動、過剰指導 対 放任主義、自主性と自律性) ポスター制作①	小テスト、前回の復習(振り返りシートの質疑応答、フィードバック及び解説) 方法提示(自分が調べたいグループを作る)、調べ学習、グループ討議	アタッチメント、自己主張、自己抑制、道徳性、向社会行動の発達について理解でき、それを基に仲間関係の発達を通して、子ども同士のトラブルへの対応方法をシミュレーションできる。遊びの変化、表象、三項関係等から保育の実際について理解できる。	予習：テキストによって、用語を調べておく。 復習：授業内容を見直し、理解できたところ、理解できなかったところを記述し、発表に備える。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	子ども相互のかかわりと関係作り、子ども集団の保育の環境を学ぶ(いざこざの原因、アタッチメント、自己主張と自己統制、道徳性、向社会行動、過剰指導 対 放任主義、自主性と自律性) ポスター制作② 実際にポスターを制作し、張り出す。	質疑応答、前回の授業内容のフィードバック及び解説 ポスター制作、グループ討議、発表準備(進捗状況に応じ、発表)	調べた用語をすべて使い、子どものいざこざについて考え、トラブルの原因を発表するための準備を行い、それをレポートすることができる。	復習：「子どものいざこざについて」すべての調べ学習の用語を使用してレポート作成を行う。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	子ども相互のかかわりと関係作り、子ども集団の保育の環境を学ぶ(いざこざの原因、アタッチメント、自己主張と自己統制、道徳性、向社会行動、過剰指導 対 放任主義、自主性と自律性) ポスター制作③ 制作ポスターの発表を行う。	前回の発表等の質疑応答 調べ学習、ポスター作成後の発表 他グループからの質疑応答	調べた用語をすべて使い、子どものいざこざについて考え、トラブルの原因をわかりやすく発表することができる。自分たちの発表への質問に、応答できる。	予習：用語を調べ、発表準備を行う。 復習：授業内容を見直し、理解できたところ、理解できなかったところを記述し、次の調べ学習トピックスに備える。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	子どもの生活・遊びと学び、養護と教育との違い、自由遊びと集団遊びとの違いを学ぶ(養護・教育、随伴性、共鳴動作、愛着関係構築、習い事、早期教育、臨界期と敏感期) ②調べ学習を行い、ポスターを制作する。	前回の配布プリントのフィードバック及び解説 講義 調べ学習 ポスターセッション、ポスター作成	「養護と教育」について理解できる。また信頼関係を構築するにはどうしたらよいかシミュレーションできる。また早期教育、初期学習等について理解できる。	予習：用語を調べておく。 復習：「養護と教育の違い」、「乳幼児との信頼関係を構築すること」について、すべての調べ学習の用語を使用して発表準備を行う。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	「養護と教育の違い」「乳幼児との信頼関係を構築するための方策」についての発表	前回の授業についてフィードバック及び解説 グループ討議 発表	養護と教育、乳幼児期の学び、愛着等から保育の実際について理解できる。また信頼関係を構築するにはどうしたらよいかシミュレーションできる。集団遊びやいざこざの経験、自己、心の理論等から遊びからの学びを理解できる。また早期教育、初期学習等について理解できる。	予習：8回目に引き続き、レポートを作成する。 復習：8回目に引き続き、レポートを完成させる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用を学ぶ 遊びの発達について学ぶ。 (平行遊び、連合遊び、協同遊び、アフォーダンス)	前回の質疑応答、フィードバック及び解説 講義 事例に対する討論	保育の物的環境や、人的環境としての保育者の役割が理解できる。同時に、遊びの段階の違いを理解できる。また、環境と主体との相互作用に関する、アフォーダンス理論について説明ができる。	予習：遊びの発達、アフォーダンスについてテキストを読み、調べておく。 復習：授業内容を見直し、理解できたところ、理解できなかったところを記述し、次回の質疑応答時に備える。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	保育所保育指針第2章保育の内容について発達課題と保育者の関わりについて考察する。 乳児、1歳、2歳、3歳、4歳、5歳の発達を調べてポスターを作成する。	前回の質疑応答、配布プリントのフィードバック及び解説 講義、方法提示 調べ学習 グループ討議	担当の年齢における発達課題と、それに伴う保育者の関わりとの関係を理解できる。	予習：保育所指針の乳児の欄を読んでおく。 復習：調べ学習を継続する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	保育所保育指針第2章保育の内容について発達課題と保育者の関わりについて考察する	前回の質疑応答、フィードバック及び解説 講義、方法提示 調べ学習 グループ討議	担当の年齢における発達課題と、それに伴う保育者の関わりとの関係を理解でき、ポスターに表現することができる。	予習：幼稚園指導要領、保育所指針等を読む。 復習：調べ学習を継続する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	保育所保育指針第2章保育の内容について発達課題と保育者の関わりについて考察する。 乳児、1歳、2歳、3歳、4歳、5歳の発達を調べてポスターを作成し、発表する。	前回の質疑応答、フィードバック及び解説 講義、方法提示 調べ学習 グループ討議	担当する年齢の発達課題とそれに伴う保育者の関わりとの関係を理解し、発表することによって、他のグループと議論することができる。 すべての発表をまとめ、レポートを作成することができる。	予習：幼稚園指導要領、保育所指針等を読む。 復習：発達課題についてのレポートを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	発達障害児の特徴について実習先の「気になる子」(第1回目のレポート)について、前回作成した表を使用し、発達の遅れと、現在の状態をレポートする。 想定される園児の困った行動について考え、対応を考察し、発表を行う。	前回のフィードバック及び解説 講義 グループ討議 発表	発達障害児の特徴について理解し、実際の保育に役立つ創造的な考察をし、他のグループの意見を聴き議論することができる。	予習：返却された実習先の「気になる子」についてのレポートを読み直す。 復習：レポート作成を行う。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	虐待と関係機関について 虐待の定義、児童相談所、施設の役割について	前回の配布プリントのフィードバック及び解説 講義 調べ学習 ポスターセッション	虐待と関係機関の役割を理解することができ、施設実習との関連性を認識することができる。	予習：テキストを読み、虐待の定義を調べておく。 復習：配布プリントを見直す。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力